

カンボジア通信

カンボジア教育支援基金 (KEAF-Japan) 会報

2021年9月 100号



〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5
JICA地球ひろば気付

カンボジア教育支援基金事務局

info@keaf-japan.com
http://keaf-japan.com

《ナットさんの現地報告》

新学期へ、段階的授業再開始まる

テレビ授業で教育機会の格差が広がっています

3月休校以来半年ぶり

カンボジアでは9月15日から2022年度の新学期へ向けて段階的に学校が再開されることになりました。3月に学校がすべて休校になって以来、半年ぶりです。首都プノンペンでは多くの学校で再開が進み出しました。地方でもそれぞれ地域の感染状況に応じて再開が始まっています。

カンボジア政府は、12歳から17歳までの子どものワクチン接種が順調に進めば、10月に段階的に学校が再開する準備を進めていました。しかし、2022年の新学期の日程はまだ決まっていないのです。

国家試験は？

教育省によると、卒業資格国家試験は中学3年生が11月15日、高校3年生が12月9日に予定されています。もし休校が続く場合は国家試験はオンラインで行うことになっていました。教育省はオンライン試験のテストもやっているそうです（右の写真：スヴァイリエン州アンサー小学校で学校再開の前日、1クラス15人で授業を再開する準備が行われていました）。



教員養成、新年度学生選考へ

教員養成制度は2年前から、2年制のコースに、加えて、4年制コースを開設して2コース制度にする改革を進めてきました。2年間の課程は小学校の先生に

なり、4年間課程は中学校の先生になります。

残念ながら昨年度はコロナ禍で、4年制の新しい学生の選考が中止されました。2022年度は新しい生徒を選考することになっています。入学試験はまだ行われていないのですが、オンライン試験になる可能性が高いそうです。

大学は？

去年は国家試験なしで入学希望者は皆合格しました。今年はどうなるか？

休校中はオンライン授業

3月下旬に休校になってから、通常の授業の代わりにオンラインスタディーを行ってきました。小・中・高校の学年ごとに担当の先生がそれぞれの時間に、教育省制作の番組またはFacebookを使ったオンライン授業です。

中・高校の中には、色々な科目担当教員が学年ごとにオンライン教室を開いています。ほとんどはZoomアプリを使っています。

インターネットやWIFIが使えず、参加できない生徒もいるので、クラスの担

当先生は自分のクラスの生徒たちにTelegramというアプリを使用して授業内容を流しておきます。生徒とのやり取りの窓口にもなっていて、宿題やテストなども出しています。担当先生は宿題をいつまでに提出しないといけないかを決めています。テストも同じやり方なのです。第一学期の試験もこのように行われていました。学業の評価も生徒が提出したものに点数をつ

けます。

小学校もオンラインスタディーや両親の Telegram に繋がって担当先生が授業をおこなっていますが、地方のインターネット環境は良くないし、携帯電話もない。そこでは担当先生が、その村の中で生徒が通いやすい場所で週に何回か授業をします。一回は 10 人以下で皆が順番や交代で勉強に来ています。



(写真:交通渋滞の酷いプノンペンの目抜き通りも車はまだまばらです)

(支援学校の現状)

1. プレアンドウン中・高校

授業: 校長先生に連絡して聞きました。教育省のオンラインスタディーの番組や Zoom や Telegram を中心に授業をしています。

インターネットや WIFI の環境が悪い、またはスマートフォンがない生徒は 参加できないため 多くても 70%しか授業を受けていないのです。残りの 30% は勉強できないそうです。

コロナ: 教員と生徒 10 人に新型コロナの感染が確認されました。もう治療を受けてほとんど治りました。

生活: 生徒の家族を始めプレイベン州都の住民の生活もあまり良くないのです。町や市場はあまり活気がありません。出稼ぎは減ってきて、タイから戻ってくる人もいます。タイやマレーシアに出られないから、わずかにプノンペンに行くくらいです。

支援要請: 10 月に学校再開ができ、(KEAF の人が) 現地訪問できるとしたら、サッカーのユニフォーム、サッカーボールを要請します。新しい校舎やサッカー場は 全部完成しました。

2. コンポントウラバイ中・高校

授業: Zoom や Telegram を利用して生徒に授業をしています。通常の授業と比べて、参加している生徒

は 50%しかいないのです。インターネット環境はあまり良くなくて電波が安定していないため、オンライン授業はすごく難しいです。休校がこのまま続くと、生徒の勉強する気がどんどん低くなっていくと心配しています。教員養成所に申し込んだ生徒も何人かいるそうです。

コロナ: 工事していた校舎は全部完成しました。副校長先生によると、新しくできた教員用寮はコロナ感染者の隔離用の施設に使用されています。幸い生徒や教員は誰も新型コロナに感染していません。12 歳から 17 歳のワクチン接種も始まっています。

生活: 町全体を見るとあまり活気はありません。タイから戻った人が多いそうです。

支援要請: 10 月学校が再開できたら、要請としてチヨーク、マーカー A4 紙など。

3. タッコー中・高校

授業: 校長先生によると、ほかの高校の同様に、Zoom や Telegram を中心に授業をしています。インターネットや WIFI 環境が良くないこと、スマートフォンがないこと、さらに経済的に困っているので参加できる生徒は 60%だけしかいません。

教員養成所に申し込んだ生徒は 30 人くらいいるそうです。入学試験を待っています。

コロナ: 校舎は今でも隔離所や軽い症状の感染者治療のために使用されています。幸いなことに、教員や生徒の中に感染者は出ていません。

生活: 生徒の家族や経済的に困っている人は、プノンペンに出稼ぎに行っています。

4. プロモルプロム小・中・高校

授業: 女の副校長先生によると、ほかの高校と同じで Zoom や Telegram を中心に授業をしています。高校の生徒たちは 60%くらい参加できていますが、中学校では 40%しか参加していません。

参加できない高校生は、家族のために出稼ぎ出ている人が多いです。中学校の生徒はスマートフォンがないとかインターネット環境が悪いのが理由として挙げられます。

コロナ: 高校では教員 2 人、生徒 2 人の感染が確認されました。教員や生徒のほとんどがワクチン接種を終わりました。高校の校舎は隔離所や軽い症状の感染者治療のために使用されています。

感染者が減ってきていますが、近くのマーケットは人がとても少ないです。

支援要請：10月に学校再開できたら、文房具、教員用教材、マーカー、マーカーのインクなど要請します。

5. プラティアート中・高校

授業：校長先生によると、インターネット環境が良くないので Zoom が使えなくて、Telegram しか使用していません。宿題やテストなども Telegram を通して生徒に出しています。

参加できる生徒は学年によって違っています。12年生は一番高く、ほぼ100%、11年生は70%、9年生は30%などです。参加しない生徒は、インターネット環境が悪いのと、プノンペンに出稼ぎが理由として挙げられます。

2020年度卒業生徒の10人が日本語を専攻していて、1人は総プノンペン大学に入学できたそうです。

生活：(コロナの影響で) ベトナムにコメが輸出できなくなったし、経済的には皆前より大変になっています。農民を始め商売する人も収入が減っています。

支援要請：10月にもし学校再開できたら、下記のように要請したいのです。サッカーボール、バレーボール、ネット、マーカー、マーカーインク、A4紙など。

6. バンティチャクライ中学校

授業：校長先生によると Telegram や Google や Groom などで授業をしています。参加している生徒は40%しかいないそうです。およそ5%の生徒は退学したと先生が言っています。ほかの40%はインターネット環境やスマートフォンがない、勉強する気がなくなったりすることで参加できないのです。

コロナ・生活：バンティチャクライ中学校の周辺の住民の生活はコロナ禍で大変になっていますが、さらに7月からベトナムがコロナ感染拡大防止対策で、臨時的にカンボジアからのコメの輸入を停止しました。収入が減っていて、マイクロファイナンスや銀行の借金を返さないといけませんので苦しんでいます。

支援要請：学校が再開できるようになったら、A4紙、マーカー、マーカーのインク、チョークなどの支援を要請します。

7. チョーチアル中学校

校長先生によると、Telegram を使用して授業しています。学年ごとや教室ごとなどで教えています。割と中3・中2年生がたくさん参加しています。それは57%くらいです。中1年生は54%だけ授業を受けてい

ます。生活の問題やスマートフォンがないのが理由にあげられます。

いつも月末テストは学校の教員が作ったものを受けていますが、チャレンジに8月のテストは教育省から出されたテストを受けることになりました。

学校が再開できたら、時計、チョーク、生徒用ノート、ペン、電卓、A4紙、物語などを要請します。

8. プレイトープ小・中学校

授業：校長先生によると Telegram を使って授業していますが、参加している生徒は中3年生が多いです。それにしても50%しかいないのです。インターネット環境が悪いので、授業は安定していません。

中学校1・2年生にはあまり授業ができていないのです。コロナ禍の中でも新校舎の工事は無事に完成しました。

支援要請：要請としては チョーク、A4紙、文房具などです。



(写真：プノンペンの国立感染症研究所病院)

10. 小学校

授業：ソンボン小学校、プレイトープ小学校、プロモルプロム小学校、アンサー小学校は皆同じで、授業はあまりできません。子どもはスマートフォンがないし、インターネット環境が悪いし、とても大変な現状です。

コロナ：先月まで決まった場所で一回に10人以下の生徒(1・2・3年生)を主に集まってもらって、先生がそこに行って教えましたが、デルタ種がカンボジアで確認されたこと、またタイから出稼ぎ者がたくさん故郷に戻ってきたので、直接で教えることが中止されました。

支援要請：学校再開したら A4紙、チョーク、ペン、ノート、スポーツユニフォームなどがほしいです。

(6頁に続く)

「カンボジア通信」が100号を迎えました

長年のご支援、ありがとうございます

「カンボジア教育支援基金」は1993年の発足以来、28年目に入っています。その間に発行された機関紙「カンボジア通信」は今号で100号になりました。大勢の会員、支援者の皆さんの長期にわたる後押し、そして私たちの支援を喜んで受け取ってくれたカンボジアの子どもや先生たちに励まされて、ここまで来ることができました。心よりお礼を申し上げます。

「カンボジア通信」の発行者は活動の進展に伴って3回、変更されています。当時の会報に従って、その足取りを振り返ってみます。

学校はすべて破壊されていた

カンボジア戦争中に共同通信プノンペン支局の記者で、ポル・ポト恐怖政治の大虐殺を奇跡的に逃れて日本に身を寄せていたコン・ボーンさんは長い戦争が終わりに近づいた1993年、郷里のプレイヴェン州プレアスダイに一時帰国、学校がすべてなくなっていることを知り、呆然となります。

祖国の復興にはまず、子どもたちに学校を建ててやろうとコン・ボーンさんのこの決意からカンボジア教育支援基金の活動が始まりました。コン・ボーンさんを助けて基金の代表を務めたのは、村井孝至元共同通信プノンペン支局長でした。

右の写真は会報7号と14号です。当時の会報はA3紙1頁でした。7号は1997年に4校目の小学校が完成したところで、カンボジア政府から復興功労賞を贈られたことが紹介されています。題字の下は4校の所在地を示す地図です。7号の上に重ねられている14号は、5校目の中高一貫教育を目指す「カンボジア日本友好学園」が1999年10月に完成し、コン・ボーンさんや地元の人たちが喜んでる様子を写真付きで報じています。

会報10号から「カンボジア教育支援基金」の後に(CEAF)と英語の頭文字が入るようになりました。

エリートつくりの「友好学園」

「友好学園」は2001年1月開校、最初の中学1年生が入学。カンボジアにはなかった半官半民の6年間一貫教育、先生には基金が特別給与を出すという「エリート育成」の学校を目指していました。

学校をつくっても先生は給料が安いために生活費稼ぎのアルバイトで忙しく、生徒の教育には十分な時間を当てられないという現実にぶつかったからです。

近隣だけでなくプノンペンからも入学希望者が殺到、入学試験で選抜するという異例のスタートになりました。村井代表は残念なことに、プノンペン支局長時代に



罹った肝炎がもとで5月に開校式にも出席できず亡くなってしまいました。

村井さんの後継に阿木幸雄さんと川根眞也さんが「CEAF 東京」共同代表につき、コン・ボーンさんはカンボジア現地代表と、任務分担することになり、コン・ボーンさんは「友好学園」理事長に就きました。カンボジア教育支援基金は学校建設による支援は打ち切りにして、「友好学園」の経営に主力を注ぐことになっていきます。

村井さんの出身地・佐賀市にCEAF 支援の組織「フロム佐賀」が1998年4月に生まれ、「友好学園」を全面支持することになりました。

途上国が先進国に追いつくためには全体の底上げを目指す教育と、すぐれたリーダーを急いで育成するエリート教育がうまくかみ合わなければなりません。コン・ボーンさんは「友好学園」をエリート教育校にする選択をしたのです。外国語コースには日本語も加え、3年後にはそのまま高校を開校、6年後には初の卒業生を送り出しました。コン・ボーンさんの狙いは成功したといえるでしょう。

「CEAF・TOKYO」が分離

これによってカンボジア教育支援基金の活動は「友好学園」経営が主体になり、新たな学校建設は打ち切りになったようです。CEAF 内ではそれを支持する人と、ついていけない人との間に溝が生まれたのではないかと思います。

「CEAF」から「KEAF-Japan」へ

翌 2007 年 4 月の臨時総会で、コン・ボーンさんの「友好学園」経営と、「友好学園」のほかにもカンボジア教育支援基金が建設した 4 校などプレアスダイ地域および隣接するスヴァイリエン州の貧しい学校への「底上げ支援」を担当する「CEAF・TOKYO」という「任務分担」の方向が確認されました。村井元代表の同僚でカンボジア戦爭取材を共にしてコン・ボーンさんとも知り合い、カンボジア教育支援基金の発足時からの支援者である筆者（金子）が阿木さんとともに共同代表に加わるようになりました。

この「任務分担」の背景となった「エリート育成」か「底上げ支援」か、をめぐる支援理念の食い違いには、「友好学園」の先生たちも絡んでしこりも残ったようで



上の写真で会報の題字を見ると、左側の 41 号は「カンボジア教育支援基金(CEAF) 会報—2006 年 12 月」となっていますが、真ん中の 42 号は「カンボジア教育支援基金・東京 (CEAF・TOKYO) 会報—2007 年 4 月」となっています。カンボジア教育支援基金の活動が現地カンボジアの「友好学園」経営と、「CEAF・TOKYO」の活動に分かれたことをうかがわせます。

会報 41 号には 2006 年 10 月に開かれたカンボジア教育支援基金の第 7 回定期総会の記事が掲載されています。この総会では意見がまとまらず、臨時総会を開くことになったとされています。筆者（金子）は出席していましたが、事情がよくわからず、議論には参加できませんでした。

す。コン・ボーンさんから「CEAF」（カンボジア教育支援基金）を名乗る組織が別々の活動することは混乱を生むから「CEAF」は使わないようにと通告がきたのです。

「本家争い」をするような話でもない、「東京組」は略称を「CEAF・東京」を「KEAF-Japan」に変えました（Cambodia は歴史的に Khmer とも呼ばれるし、日本語では KANBOJIA）。写真右側の「会報 51 号 2009 年 6 月」以降、「カンボジア教育支援基（KEAF-Japan）」で現在に至っています。

（＜「友好学園」と競争＞

の項は 6 頁に続く）

ありがとうございました (2021 年 6 月 1 日～2021 年 8 月 31 日)

年会費、寄付金、奨学金を振り込みくださった方々に厚くお礼を申し上げます (敬称略させていただきます)

(大阪) (東京) (東京) (神奈川)
 (東京) (京都) (群馬) (神奈川) (東京) (東京)
 (埼玉) (東京) (千葉) (東京) (神奈川) (東京)
 (東京) (埼玉) (東京) (神奈川) (神奈川)
 (千葉) (東京) (東京) (愛媛) (神奈川)
 (神奈川) (東京) (大阪) (東京) (東京) (東京)
 (神奈川) (京都)

※お名前は個人情報なので伏せて掲載しています。

2021 年度総会先送り

(5 頁からの続き)

カンボジア教育支援基金 (KEAF) の総会は例年 10～11 月に開催してきましたが、今年度 (2021) はコロナ感染状況を見ながら当面、開催時期を先送りします。前年度は中止の止むなきに至っていますので、時期をずらしても開催したいと考えています。

(3 頁からの続き)

9. 養護施設 (アスペカ)

生活支援: 今現在、(幼稚園生から高校生まで) 子どもが 50 人います。今まで外国人の支援や訪問は全然ありません。幸いなことに政府から支援してもらっています。コロナで生活のため 子ども 1 人 1 か月に \$ 37.5 を出してもらっています。

それは支援金としてセンターに管理や生活上の必要な食事、設備、光熱費などに使ってもらっています。子供たちは オンラインスタディーを受けています (フランスの慈善団体が支援している施設)。

授業: 大きい子は Telegram で勉強していますが、小さい子は担当先生のところに資料を取りに行くそうです。昨年度の高校卒業生は 7 人いて、3 人はプノンペンに進学、4 人はプレイヴェン州の大学に進学したそうです。

コロナ: 皆が元気で感染者はいません。大きい子はワクチン接種を 2 回受けました。

支援要請: ノート、カバン、ペン、自転車、などがほしいです。

「友好学園」と競争

「友好学園」は校舎を次々に増設、1 棟は図書室にし、校庭にはサッカーやバスケットボールの設備をつけるなど整備を進めました。そのころ戦争終結後のベビーブームが始まり、周辺の公立学校は教室不足に苦しんでいた (2010 年代中ごろから日本を含めた国際支援により公立学校でも校舎の増設、新設が進み始めた)。「友好学園」は周辺校の羨望の的になりました。

しかし、羨んでいるだけではなく、いい競争相手にもなりました。「KEAF-Japan」が支援している高校は 5 校あります。その一つ、プレイヴェン州都にあるプレアンドウン高校は州のトップ高校ですが、他の 4 高校の中から国家試験で同高校に並ぶ好成績を上げる学校も出ています。(文責・金子敦郎)



(写真: 最近のプノンペン)